

# 縁の下の 力もち

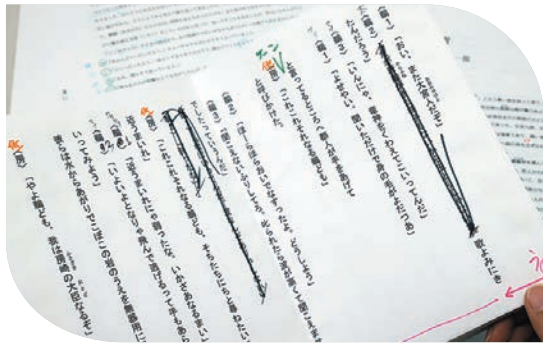


撮影協力：京都市福祉ボランティアセンター

電話は、  
お年を召した方でも  
抵抗なく使える  
身近なもの。  
それがいいんです。

## たきいみきさん

1974年大阪生まれ。大阪芸術大学舞台芸術学科卒業。タレント活動を経て舞台女優に。東京、静岡での舞台活動を経て、現在京都在住。コロナ禍で活動が制限される中、京都市文化芸術活動緊急奨励金を活用した電話による朗読活動「朗読でんわ劇場」を開始。現在、今後の継続に向けてクラウドファンディングを実施中。詳細はこちらへ<http://mikitakii.com>



たきいみきさんは指定を受けた作品を読み込んでから朗読に臨む。「自分が他者を支えているつもりが、逆に俳優としての自分が支えられた」と振り返る。

「電話の向こうの気配を探り、朗読を呼応させる。演者とお客さんがつながる感覚があるのは、演劇と同じです」。

「朗読でんわ劇場」とは、聞き手が指定する作品を、一回30分間、プールの舞台俳優たきいみきさんが電話で朗読する活動だ。予約制で、7〜8月の期間中に子どもからお年寄りまで約40人に寄り添い、語り掛けた。



舞台上立つたきいみきさん。2016年、新潟のダンスカンパニーNoism制作「劇的舞踊 ラ・バヤデル〜幻の国」に出演したときの様子。(撮影・篠山紀信)

「季節との付き合い方が暮らしに溶け込んでいる。京都人の感性の豊かさを感じます」。

人に会えない時代に、つながりを生み、心に潤いを届ける。たきいさんの朗読は、電話越しに相手の心を支える「縁の下の力もち」だ。

文学作品の「朗読でんわ劇場」で人と人とのつながりを生み、心に潤いを届ける

生きる上で不要不急とされがちな演劇などの文化活動。しかし同時に、私たちの心を潤し、支えてくれるものでもある。歴史的に芸術・文化の中心であった京都で、京都市独自の文化芸術活動への支援策を受け夏に実施された「朗読でんわ劇場」が静かな反響を呼んだ。

また、大阪出身、東京や静岡を経て京都に移り住んだたきいみきさんは、活動を通じて「京都らしさ」を色濃く感じると話す。リクエスト作品には通好みの戯曲などもあるほか、『五山送り火』の日に、亡くなった家族に朗読を贈りたいという方もいたという。

Tomorrow's solutions, today



はたらきを化学する。

## 私も力もちです

電話での朗読によって人と人とのつながりを生み、心に潤いを届けるたきいみきさんと同様、三洋化成は機能性化学品を通じて、暮らしや産業のさまざまな分野を支えています。

三洋化成工業株式会社

●京都市東山区一橋野本町11-1  
もよりバス停は「泉涌寺道」

三洋化成 Twitter

 @sanyochemical